

サンゴ礁ウィーク2016 報告書

2016年7月

沖縄県サンゴ礁保全推進協議会
サンゴ礁ウィーク 2016 実行委員会

○サンゴ礁ウィーク 2016 の実施について

- ・ 石垣市では、2011 年から、地域が主体となり 3 月 5 日（サンゴの日）の前後一週間をサンゴウィークとし、サンゴ礁の保全に関する様々な活動を展開しています。そこで、沖縄県サンゴ礁保全推進協議会では、石垣市で取り組まれている活動を沖縄県全体に広げ、多くの県民の参加のもと、これらの活動が相互に繋がりを持ち、サンゴ礁を大切にする県民の心を育むことを目的として、平成 26 年 3 月に第一回目となる「おきなわサンゴ礁ウィーク 2014」を開催しました。

平成 28 年には、第三回目となる「おきなわサンゴ礁ウィーク 2016」を平成 28 年 2 月 27 日（土）～3 月 13 日（日）に実施しました。

- ・ 期間中はシンポジウムや磯の観察会などの体験型イベントなど 24 団体の共催によるイベントが県内各地で開催されました。

- ・ サンゴ礁ウィーク実行委員会の開催

以下のとおり実行委員会を開催した。

実行委員：中野義勝、吉田稔、藤田喜久、佐藤崇範、権田雅之、案納昭則、小菅陽子、沖縄県環境科学センター（山川英治）、沖縄県環境生活部自然保護・緑化推進課（中村章弘）

日時：2015 年 11 月 19 日（1 回目）、2015 年 12 月 13 日（2 回目）、2016 年 1 月 21 日（3 回目）、2016 年 3 月 26 日（4 回目）

内容：実施要領等の作成、イメージ展開準備、広報先等調整など

- ・ イベント登録

平成 27 年 12 月 1 日～平成 28 年 1 月 8 日の期間に当協議会メーリングリストや HP 上にてイベント実施者の募集を行いました。また、昨年度おきなわサンゴ礁ウィークにてイベントを実施していただいた団体に協力を依頼しました。

イベントを実施するにあたり、会場使用を希望する団体に対しては、県立博物館・美術館のこともアトリエ、県民アトリエを当協議会が借用し、会場を使用したイベントを実施できるようにしました。また、希望する各イベント主催実施者に 2 万円の支援金を支給した（11 団体）。

登録があったイベントは計 24 でした。各イベントの主催者、イベント名、開催日時については、表 1（サンゴ礁ウィーク 2016 期間中に開催されたイベント一覧）に示しました。

表1. サンゴ礁ウィーク 2016 期間中に開催されたイベント一覧.

NO	実施者	イベントタイトル	実施期間
1	特定非営利活動法人 宮古島海の環境ネットワーク	ボランティア海岸清掃	3月6日(日)
2	特定非営利活動法人 宮古島海の環境ネットワーク	海辺の生きもの観察会	3月12日(土)
3	ナンハナリサンゴ調査会	久米島の海の生き物とサンゴの勉強会	2月後半~3月13日迄
4	NPO 法人 コーラル沖縄	サンゴ苗床づくり体験	3月5日(土)
5	珊瑚展実行委員会	皆で一緒にサンゴの紙芝居を作ろう	3月5日(土)、6日(日)
6	沖縄リーフチェック研究会	沖縄島のサンゴ礁:写真展とトーク	3月1日(火)~3月12日(土)
7	ニライ地区のサンゴを見守る会	親子でサンゴの海の磯観察	3月10日(木)
8	沖縄県立博物館・美術館	サンゴで謎解き~博物館へサンサンGO GO! 2016	3月5日(土)、6日(日)
9	あーまんシアター	あーまんシアターと貝あわせ	3月6日(日)
10	日本サンゴ礁学会若手の会	沖縄のサンゴ礁研究最前線~安心してください、ボクたちがいます~	3月12日(土)、13日(日)
11	ハッピーダイブ.com	見よう♪考えよう♪沖縄のサンゴ礁「体験ダイビング」または「シュノーケル」	2月27日~3月13日
12	ニッポンハムグループ	サンゴと海の生き物の学習会	3月13日(日)
13	有限会社海の種	合言葉で行こう!さんご畑	2月27日~3月13日
14	(一財)沖縄県環境科学センター	沖縄県サンゴ礁保全再生事業シンポジウム	3月12日(土)
15	宮古島マリリゾート協同組合	宮古島海の環境学習	3月5日(土)
16	洋服ポストさんごほぜん	洋服ポストさんごほぜん+清澄白河プチマルシェ	3月6日(日)
17	日本サンゴ礁学会サンゴ礁保全委員会	沖縄の大規模開発を考えるワークショップ	3月12日(土)
18	(一財)沖縄美ら島財団総合研究センター	サンゴ礁の磯観察	3月12日(土)
19	国連生物多様性の10年市民ネットワーク	東京湾は本当にサンゴ礁になるの?地球温暖化がサンゴ礁の生き物に与える影響	3月12日(土)
20	(一財)沖縄美ら島財団総合研究センター	ちっちゃな子をもつお母さんのためのはまべさんぽ	2月27日(土)
21	(一財)沖縄美ら島財団総合研究センター	漂着物ってなに?~海岸を歩いて探してみよう~	2月28日(日)
22	(一財)沖縄美ら島財団総合研究センター	地層ってなに?~サンゴでできた石から考えてみよう~	3月5日(土)
23	(一財)沖縄美ら島財団総合研究センター	サンゴの型取り染め	3月6日(日)
24	(一財)沖縄美ら島財団総合研究センター	ウミガメのなぞ ~サンゴ礁でみられるウミガメについて~	3月13日(日)

・ 広報

広報用にステッカー、シール、チラシ、ポスターを作成した（表2）。また、サウジアラムコ社よりスタッフジャンパーの提供があった。

モノレール駅（県庁前）で平成28年2月1日から平成28年3月13日に有料広告（ポスターの掲示）を行った。

また、Facebookアカウントや協議会ホームページにサンゴ礁ウィーク2016のページを開設しイベントの詳細について案内するようにしました（図3）。

表2. 広報資料と部数.

広報資料	部数
ステッカー(10×10cm)	300
シール(10×10cm)	500
ジャンパー	200
チラシ(A4)	10000
ポスター(B1)	200

主な配布先：イベント登録団体、実行委員会※1、共催や後援団体、FM 沖縄、サウジアラムコ、沖縄県※2

※1：実行委員会からは、Facebook、サンゴ礁関係 ML、沖縄テレビ、ラジオ局（RBC）、月刊ダイバー、ダイビング団体などへ依頼した。

※2：沖縄県からは県関係機関、市町村、市町村立図書館・博物館、県内大学、県立高校、観光関係（沖縄観光コンベンションビューロー、旅行業協会、ホテル旅館組合等）へ配布し、広報依頼を行いました。また、県教育事務所（国頭、中頭、那覇、島尻、宮古、八重山）の協力を得て、県内の小中学校へ配布しました。報道機関については、後援依頼、広報依頼、取材依頼をしました。



図3. サンゴ礁ウィーク 2016 web ページ.

・共催、後援、協賛

共催、後援、協賛は以下のとおり。

【共催】

沖縄県

石垣島サンゴウィーク実行委員会

NPO 法人宮古島海の環境ネットワーク

ナンハナリサンゴ調査会

NPO 法人 コーラル沖縄

珊瑚展実行委員会

沖縄リーフチェック研究会

ニライ地区のサンゴを見守る会

沖縄県立博物館・美術館

あーまんシアター

日本サンゴ礁学会若手の会

ハッピーダイブ.com

ニッポンハムグループ

有限会社海の種

（一財）沖縄県環境科学センター

宮古島マリンリゾート協同組合

洋服ポストさんごほぜん

日本サンゴ礁学会サンゴ礁保全委員会

（一財）沖縄美ら島財団総合研究センター

国連生物多様性の10年市民ネットワーク

WWF ジャパン

宮古テレビ（株）

石垣ケーブルテレビ（株）

（株）ラジオ沖縄

環境省那覇自然環境事務所

日本サンゴ礁学会

【協賛】

アラムコ・アジア・ジャパン（株）

【後援】

（株）琉球新報社

（株）沖縄タイムス社

宮古新報（株）

（株）宮古毎日新聞社

（株）八重山毎日新聞

（株）八重山日報社

沖縄テレビ放送（株）

琉球放送（株）

琉球朝日放送（株）

NHK沖縄放送局

○実施結果について

・イベント開催状況

平成 28 年 2 月 27 日（土）～3 月 13 日（日）におきなわサンゴ礁ウィークを開催し、24 のイベントの応募がありました。後日、イベント主催者へ依頼をした実績報告などによると、1 つのイベントで参加者が集まらず実施ができなかったと報告がありました。

その他のイベントについて、報告のあった内容について以下に示します。

●春の 1 日講座 サンゴとわたしのものがたり-平成 27 年度サンゴ礁保全再生事業シンポジウム

- ・実施主体： 沖縄県自然保護緑化推進課／沖縄県環境科学センター
- ・開催日： 3 月 12 日（土）
- ・参加者数： 33 名
- ・概要： このシンポジウムは、「一日講座」として参加者が飽きないよう題目と進行を工夫し一般市民を対象として開催した。サンゴ礁に関する各分野の最前線で多彩な活動を行ってきた講師による、3 つの講座を柱に、司会らと講師との対話や講師同士による対談、参加者との質疑応答を行った。講座内容は、サンゴの生物学や生態学、人類学を話題の中心としながら、サンゴ礁に寄り添って暮らす生き物や人、またサンゴ礁に関わるようになった講師自身の経歴を紹介し、自然環境保全に対する姿勢や考えかたを参加者に提案した。
- ・感想など： 司会を含む 5 名の登壇者の親しみやすいうえに専門的な最新的话题を、出席者飽きさせることなく提供することができ、参加者からの評価は非常に高かった。登壇者や提供できた内容が高い質であった一方で、参加者数が伸び悩み、高校生を主な対象として想定したとしたことや、タイトル名、広報文や広報先などを原因とすると考えられる。

●沖縄島のサンゴ礁：写真展とトーク

- ・実施主体： 沖縄リーフチェック研究会
- ・開催日： 3 月 1 日（火）～14 日（月）
- ・参加者数： トークイベント 40 名 写真展のべ 100 名
- ・概要： 沖縄島周辺のサンゴ礁を紹介する写真展を実施。泡瀬干潟、大嶺海岸、浦添、勝連半島、辺野古、大浦湾など多くの場所の写真を展示。3 月 6 日には同会場、表浜ネットワークの田中雄二氏を招いてトークイベントを実施。
- ・感想など：
 - ・ウミガメや砂浜の話为基础から聞くことができ勉強になった。
 - ・自分では潜れないので、いろんな場所の写真が面白かった。
 - ・同じアオサンゴでも大浦湾と勝連半島のでは形が違うのが面白い。

●サンゴと海の生き物の学習会

- ・実施主体：ニッポンハムグループ
- ・開催日：3月13日（日）
- ・参加者数：91名
- ・概要：沖縄県サンゴ礁保全推進協議会が主催する「サンゴ礁ウィーク」で募集した子供たちのほか、公益財団法人日本環境協会「エコクラブ」そしてニッポンハムグループ従業員とその家族が参加して、サンゴの苗の植え付け活動と学習会をおこない、自然を大切にすることを育む。
- ・感想など：
 - ・親子で参加させて頂きましたが、沖縄の海洋の生物の多様性について学ぶ機会となった。
 - ・実際にサンゴを植え付ける体験を通して、普段の生活から出来る事に気を付けていきたいと思った。



●サンゴ苗床作り体験

- ・実施主体：NPO 法人コーラル沖縄
- ・開催日：3月5日（土）
- ・参加者数：19名
- ・概要：座学でサンゴの役割や人間との関わり、温暖化の影響を受けた現状などの情報を共有し、サンゴ飼育水槽へ移動しサンゴの苗床づくりを体験する。
- ・感想など：告知が上手く出来ていなかったことで予定の募集人数には達しなかったが、予定していた座学の時間を大幅にオーバーするほど質問が相次ぎ、参加された方々はサンゴやサンゴ礁保全について意識が高いことを実感した。



●合言葉で行こう！！さんご畑

- ・実施主体： 有限会社海の種
- ・開催日： 2月27日～3月13日（期間中毎日開催）
- ・参加者数： 大人115名、子供77名（開催期間中ののべ人数）

- ・概要： さんご畑入り口にて、合言葉「サンゴ可愛い」と言うとさんご畑の入場料金が無料
- ・感想など： 期間中は多くの家族連れのお客様にご来場いただき、大変にぎやかでした。口コミで県内在住の外国人の方にも広まっていたようで、期間内にリピーターとしてご来場くださる方もいらっしゃいました。

多くの方に、施設の意義や目的をお伝えすることができたことは、大変有意義でした。



●ボランティア海岸清掃

- ・実施主体： NPO 法人宮古島海の環境ネットワーク
- ・開催日： 3月6日（日）
- ・参加者数： 10名
- ・概要： 宮古島市、池間島の海岸にて参加者全員で海岸清掃を行った。
- ・感想など： 県による回収事業が行われてそれほど日にちがたっていなかったが、北風の影響が強く受ける海岸のため、既にゴミがたまり始めていて、45リットルゴミ袋24袋相当ゴミを回収した。



●海辺の生きもの観察会

- ・実施主体： NPO 法人宮古島海の環境ネットワーク
- ・開催日： 3月12日（土）
- ・参加者数： 19名
- ・概要： 幼児～小学生低学年の子どもたちを対象に、サンゴに関するクイズ、謎の生きもの探しなどゲームを取り入れて生きものを観察した。
- ・感想など： 予想以上に、子どもたち自身でたくさんの生きものを見つけていた。



●沖縄のサンゴ礁研究最前線～安心してください、ボクたちがいます～

- ・実施主体： 日本サンゴ礁学会若手の会
- ・開催日： 3月12日（土）～13日（日）
- ・参加者数： およそ100名（2日間ののべ人数）
- ・概要： サンゴ類等の骨格標本などの展示を行い、サンゴ礁が育む生物たちを紹介した。また、顕微鏡を用いて、動物としてのサンゴの観察や共生する藻類の観察を行った。さらに、新発見生物の命名法や、サンゴを捕食する貝類、サンゴの病気、沖縄本島と周辺離島のサンゴ群落の遺伝的な繋がりなど、現在進行中の研究成果を報告した。座談会では、地元高校生らと琉大・OISTの研究者らが互いの疑問に答え合うことで相互理解を深め、グループワークを通して科学的な考え方について議論を行った。
- ・感想など： 研究者として成長段階にある若手を主体として3年間参加させて頂いております。子供たちの驚く様子は純粋に嬉しく、来場者のみなさまは熱心に耳を傾けて下さり、時に研究内容に対する鋭いご指摘を受け、時に研究活動を励まして下さるなど、毎年非常によい刺激を受けております。科学者としての未熟さゆえの不安を感じる部分もありますが、可能な限りこれからも参加できるよう努力しますので、今後ともよろしくお願い致します。



○新聞などの掲載状況について

- ・新聞などへ掲載された記事を以下に示します。

「サンゴは動物」 池間島で海辺の生き物観察会



3月5日のサンゴの日を
含めた一週間の「サンゴ礁
ウィーク2016」(主催・
県サンゴ礁保全推進協議
会、共催・宮古島の環境
ネットワークほか)にちな
んで同ネットワーク(春川
淳代表理事)は12日、池間
島西側のイキズビーチで
「海辺の生き物観察会」を
開催した。親子連れら約30
人が参加し、サンゴの大切
さを実感した。

全羽済地域貢献助成事業
の一環で、同ネットワーク
の教育委員会(春川京子委
員長)が企画・運営した。

春川委員長は、参加者ら
を前に「サンゴは動物であ
る。サンゴは夜になると触
手を長く伸ばし、小さな動
物プランクトンを捕まえ口
に運んで食べる」と説明し
た。

また「サンゴは、イソギ
ンチャクやクラゲの仲間で
す」と語ると、子供たちは
驚いた表情を見せていた。

この後、参加者らは、引
き潮で干上がった礁でナマ
コなどの生き物を観察し
た。

春川委員長(左)がサンゴの生態などについて説明した
=12日、池間島西側の海岸

3月6日 沖縄タイムス 30面

沖縄タイムス新聞
平成28年3月15日 頁30誌

謎解き サンゴ学ぶ きょうまで県立博物館

「サンゴで謎解き!博物館
へサンサングOGO!」(主
催・県立博物館・美術館)が
5日、那覇市おもろまちの同
館で始まった。館内に隠され
ている「謎解きキーワード」
を探しながらサンゴについて
学ぶ企画。謎をすべて解くと
サンゴのストラップがもらえ
る。

初日は午前中から親子連れ
などでにぎわった。きょうだ
いで参加した筒長良昇君(津
嘉山小3年)と佐佳さん(同



小1年)は、サンゴの種類や
魚の謎について、館内を巡り
ながら答えを探していた。

良昇君は「サンゴ礁にはク
マサカガイという貝が住んで
いることが初めて分かった」
とうれしそうに話した。同企
画は6日まで。参加無料(博
物館常設展の入場券が必要)。
問い合わせは同館へ、電話
098(941)8200。

.....
撮影の筒長良昇さんと一緒に謎解き
をする良昇君(右)と佐佳さん(中
央) 5日、県立博物館・美術館

話題 サンゴと豊かな海学ふ 県博でトークイベント

水族館や大学の研究者が、サンゴ礁や海の生き物の保全などを伝えるトークイベントが12日、県立博物館・美術館で開かれた。

美ら島研究センターの山本広美さんは、サンゴの種類によって、精子と卵子が入ったカプセルのようなものを放出する特性があることに触れて「正反対なことが一つの中で起きること」が魅力と説明。生まれたばかりのサンゴが表面の繊毛で泳ぐ様子も映像で紹介し「まだまだ研究の余地がある」と話した。

このほか、甲殻類の研究などに取り組む県立芸術大の藤田喜久准教授は、日本近海をはじめ、沖縄の海に多彩な生物が生息していることを挙げて「人の目線ではなく、生き物の目線で自然を眺める」ことの大切さを強調。新種の生物に名前を付ける際には、本当に初めて見つかったのかどうかの確認が難しいという苦労話も話っていた。



研究者たちが、サンゴや海の魅力を語ったトークイベント =12日、県立博物館・美術館



月刊ダイバー2016年5月号